

## ベーシック診断テストの結果からの考察

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
全体の傾向 (グラフ)	ベーシック診断テストは無し					
全体の傾向						
設問ごとの傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答数 5.7/8問</li> <li>平均正答率 71.2%</li> <li>山は右寄り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答数 5.2/11問</li> <li>平均正答率 47.5%</li> <li>山はやや左寄り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答数 11.2/17問</li> <li>平均正答率 65.6%</li> <li>全17問中、正答数10～15問の児童が多く、山は右寄り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答数 11.6/20問</li> <li>平均正答率 58.6%</li> <li>正規分布に近いが、二極化の傾向が強い。正答数12～16問と7～9問が多い。</li> <li>正答数が0の子が1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答数 6.6/16問</li> <li>平均正答率 41.4%</li> <li>長方形に近い形。</li> </ul>	
	<b>【正答率 8割以上】</b> 「たし算」「量比べ」「点をつないでいろいろな形をかく」 <b>【正答率 4割未満】</b> 「たし算、ひき算の文章題」	<b>【正答率 8割以上】</b> 「分数」「九九」 <b>【正答率 3割未満】</b> 「テープ図」の図表現 「長さ」「かさ」の単位換算 「箱の形」の構成要素の名前 「表とグラフ」のグラフ表現	<b>【正答率 8割以上】</b> 「たし算」「小数」 「小数のたし算、ひき算」 「分数のたし算、ひき算」 <b>【正答率 4割未満】</b> 「かけ算」「時間と時刻」 「立体図形」「作図」 「表とグラフ」	<b>【正答率 8割以上】</b> 「数直線上の小数を読み取る」 「分数のたし算」 <b>【正答率 4割未満】</b> 「四捨五入」「□を使った式」 「複合図形の面積」 「立体図形の構成」	<b>【正答率 8割以上】</b> 「合同な三角形の作図」 <b>【正答率 3割未満】</b> 「公約数」「百分率」 「人口密度と概数」 「速さと単位換算」	

全体としての課題	<p>学校全体として、「式（演算決定・□を使って）」「単位（換算・付け忘れ）」「作表・作図」に課題が見られる。また、どの内容においても「仕方」だけでなく「意味理解」を深める必要がある。</p>					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
各学年の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減法の計算は身に付いているが、複数の問題を解く際には、簡単な間違いをする傾向が見られる。まだ指で計算している児童が1割程度見られる。</li> <li>問題をよく読まずに取り組み、解き間違いをする児童が多少見られる。</li> <li>加減法が混ざった文章題を苦手とする児童が若干名いる。</li> <li>文章問題を解く際、答えを正しく書けなかったり、単位を付け忘れりする児童が若干名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たし算やひき算の計算は70%以上の児童が解けるが、文章題の中でたし算やひき算を扱う問題になると苦手になってしまう。（正答率33%）また、答えは合っているが、単位を書き忘れてしまう児童が若干名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テープ図、表とグラフの実態（正答率30%）から、問題と図表の関連付けが苦手である。また、丁寧に問題を解決しようとする意識も低い。</li> <li>単位換算や構成要素を問われる問題の実態（正答率29%）から、学習したことを知識として定着させることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3桁×2桁のかけ算の正答率が26%で低い。2桁×2桁以上のかけ算の筆算方法が定着していないと考えられる。</li> <li>図示したり、□を使って式を表したりする問題の正答率が39%と低い。数字のみに着目してしまい、問題場面全体を捉えられていないことが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例の関係を□を使った式で表現することが難しい。（正答率24%）</li> <li>立体の面の平行・垂直について十分に理解できていない。（正答率32%）</li> <li>答えを記入するとき、数値は合っているが、単位を書き忘れり、間違えたりしている児童が若干名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率が41%と知識・技能の定着に課題がある。</li> <li>人口密度を求めて概数で表す問題や速さを求めて単位換算する問題は正答率が10%未満で定着していない。</li> <li>公約数や百分率の問題も正答率が30%未満で課題がある。</li> </ul>
全体としての手だて	<p>どの単元においても、繰り返し練習したり、意味を振り返ったりすることで、知識・技能や意味理解を深める。</p>					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
各学年の手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始めにフラッシュカードや計算カードに取り組みせたり、プリント等を活用したりしながら繰り返し解かせることで基礎・基本の学力の定着を図っていく。</li> <li>具体物を用いて問題場面を再現することで、問題文の意味をしっかりと捉えさせる。</li> <li>問題文にアンダーラインを引かせることで、問われていることを児童に捉えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の中でどんな言葉が出てくると（「合わせて」「違いは」など）たし算になるのか、ひき算になるのかということを繰り返し指導する。</li> <li>単位の必要性、重要性について繰り返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し問題場面を図表に整理したり、よりよい図表現や正確な作業方法を話し合ったり、教授したりするとよい。</li> <li>学習後も繰り返し（半）具体物操作させることで、操作と言葉を関連付けて知識を定着させていくとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2桁×2桁の筆算を繰り返し計算し、定着させる。</li> <li>問題場面全体を捉え自分の考えを図を使って表せるよう繰り返し指導する。</li> <li>円や三角形の図形の構成要素について、作図を含め繰り返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例で表や数直線で表現されたものを式にすると、何に何をかけるのかを丁寧に指導する。</li> <li>図形の構成要素について、作図を含め、繰り返し指導する。</li> <li>単位の重要性を繰り返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率が3割未満の単元については、算数タイムを使って再指導が必要。人口密度や百分率については、公式を覚えて終わりにするのではなく、意味を理解させることを重視する。</li> <li>単位換算については、1000倍を表すキロや1/10を表すデシなど、接頭辞を押さえる。</li> </ul>